

MRJミュージアム

国産初のジェット旅客機 (Mitsubishi Regional Jet) を体感

実物大のフライトデッキ

ものすごい広さであった。普通の「博物館」をイメージしないでほしい。大きさも含め本物にこだわったディスプレイである。



日本的な美学

数値流体力学の解析によってデザインされた空力の設計、燃費や排ガス対策のみならず、操縦性や快適性にこだわった設計に日本的な美学を感じた。



すごかったMRJの最先端技術

2017年9月29日にオープンしたばかりのMRJミュージアム。日本初の国産ジェット旅客機として注目されている。同志社中学校の学びプロジェクトでは本物の学びの機会を提供しようと、MRJミュージアム体験ツアーを企画した。かなり奥深くまで入れるゆえに、かなりハードなセキュリティを要求されました。同志社中學生徒27名が参加しました。





「国産のこだわりが、どんなところにあるのか知りたくて参加しました。MRJは排気ガスと騒音をあまり出さないのので、機内の音が静かであったり、夜間でも飛べる事と、普通は座席の下に設置してある荷物室を後ろに設置した事で天井を高くする事ができて、少しでも快適な空間を作れたと教えていただきました。そして燃費が良く、排気ガスも減らした事で、環境への配慮もされているんだと思いました。日本の製品は世界中の人から人気があり信用されています。そんなプレッシャーがある中、まだ日本では製作したことのない飛行機を作るのは、凄く大変な事だと思いました。また、機体のデザインの曲線は日本刀であったり、赤、黒、茶の三色は漆塗をイメージしていたり、日本の伝統工芸品を活かしているところも「こだわり」だと思いました。日本の代表となる飛行機が早く活躍してくれたらいいなと思いました。」（2年生N）

